

【平成 19 年度決算に係る健全化判断比率及び資金不足比率】

1. 一般会計等に係る健全化判断比率

項目	比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	12.40%	20.00%
連結実質赤字比率	—	17.40%	40.00%
実質公債費比率	14.6%	25.0 %	35.0 %
将来負担比率	120.7%	350.0 %	

※ 実質赤字額、連結実質赤字額が生じていないため、実質赤字比率、連結実質赤字比率は算定されません。

2. 公営企業に係る資金不足比率

会計	比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
病院事業会計	—	
公共下水道事業特別会計	—	
温泉事業特別会計	—	

※ いずれの会計においても、資金不足額が生じていないため、資金不足比率は算定されません。

3. 各比率について

① 実質赤字比率

$$= \text{一般会計等の実質赤字額} / \text{標準財政規模} \times 100$$

$$(\triangle 1,004,763 \text{ 千円(黒字)} / 21,027,580 \text{ 千円} \times 100 = \triangle 4.77\%)$$

② 連結実質赤字比率

$$= \text{地方公共団体の連結実質赤字額} / \text{標準財政規模} \times 100$$

$$(\triangle 4,054,847 \text{ 千円(黒字)} / 21,027,580 \text{ 千円} \times 100 = \triangle 19.28\%)$$

③ 実質公債費比率

$$= \text{一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金} / (\text{標準財政規模} - \text{算入公債費等の額}) \times 100 \quad (3 \text{ か年平均})$$

$$(13.69278 + 15.78189 + 14.47601) / 3 = 14.6\%$$

$$\text{平成 17 年度} \quad 2,465,660 \text{ 千円} / 18,007,014 \text{ 千円} \times 100 = 13.69278$$

$$\text{平成 18 年度} \quad 2,864,834 \text{ 千円} / 18,152,672 \text{ 千円} \times 100 = 15.78189$$

$$\text{平成 19 年度} \quad 2,622,355 \text{ 千円} / 18,115,172 \text{ 千円} \times 100 = 14.47601$$

④ 将来負担比率

＝一般会計等が将来負担すべき公営企業等を含めた実質的な債務  
／（標準財政規模－算入公債費等の額）×100  
(21,878,387千円／18,115,172千円×100＝120.7%)

⑤ 資金不足比率

＝公営企業ごとの資金の不足額／事業の規模×100

水道  $\Delta 1,212,424$  千円(黒字)／ $2,130,995$  千円×100＝ $\Delta 56.8\%$

病院  $\Delta 1,694,300$  千円(黒字)／ $9,593,480$  千円×100＝ $\Delta 17.6\%$

下水道  $\Delta 13,807$  千円(黒字)／ $543,184$  千円×100＝ $\Delta 2.5\%$

温泉  $\Delta 2,984$  千円(黒字)／ $24,603$  千円×100＝ $\Delta 12.1\%$